

臨床腫瘍研究所外来セミナー

千葉県がんセンター・埼玉県立がんセンター交流セミナー

演題 : NLRR family proteins play distinct roles in deciding cell fate and affect the clinical outcome in neuroblastomas

発表者 : 高取 敦志 先生

千葉県がんセンター研究所 小児がん研究センター

日時 : 平成25年11月19日 (火) 午後5時より

場所 : 臨床腫瘍研究所 1階カンファレンスルーム

要旨

千葉県がんセンターでは、神経芽腫の治癒率の向上を目指し、神経芽腫の悪性度を規定する新たな標的分子を探索するために神経芽腫組織から cDNA ライブラリーを作製し、神経芽腫の予後と相関する新規遺伝子を同定した。その中から NLRR (neuronal leucine-rich repeat protein)ファミリー遺伝子に着目し、その生物学的特性を解析してきた。NLRRファミリーは3つの遺伝子から成る1回膜貫通型受容体であり、それらに結合するリガンドが未だ知られていない上に、その機能についても不明な点が多いオーファン受容体である。これまでの解析から、(1) NLRR1 の発現は予後不良群において高く、一方 NLRR3 は予後良好群で高いこと、(2) NLRR1 は神経芽腫において予後不良群と相関する重要ながん遺伝子である MYCN 転写因子の直接の標的遺伝子である一方、NLRR3 の遺伝子発現は MYCN により負に制御され、このことにより神経芽腫臨床検体における発現パターンが説明されることを見出した。また機能解析により、NLRR1 は細胞増殖、NLRR3 は細胞分化という全く異なる細胞運命決定に関わる因子であることが分かってきている。そこで本セミナーでは、最近の研究成果についてご紹介するとともに、NLRR1 を標的とした新規治療薬開発の可能性について議論したい。

連絡先: 埼玉県立がんセンター臨床腫瘍研究所 事務室

048-722-1111 (内線 4601)

対象者: 関心のある方 (事前申し込み不要)